

第3回 富山県経済・文化長期ビジョン懇話会 議事要旨

- 1 日時：平成28年4月12日（火）16：00～18：00
- 2 場所：富山第一ホテル3階 白鳳の間
- 3 出席委員（五十音順）
遠藤会長、一柳特別委員、田中特別委員、西村特別委員、朝日委員、稲垣委員、
岩田委員、梅田委員、可西委員、神川委員、河合委員、川村委員、杉野委員（代理）、
高木委員、田中委員、中井委員、永原委員、水口委員、吉田泉委員、吉田忠裕委員、
綿貫委員
<青年部会>
藤井代表幹事、清水副代表幹事、田中幹事、田村幹事、長岡幹事、中林幹事
- 4 議事
(1) 青年部会意見とりまとめ 報告
(2) 長期ビジョン骨子案（たたき台）
(3) 意見交換
- 5 発言要旨
(1) 開会挨拶 石井知事
 - ・ 12月に第2回目の懇話会では、数土特別委員からプレゼンを頂き、継続的な新しい価値の創造こそが重要だといった貴重なお話を頂きました。また、各委員の皆さまからも、クリエイティブな経済価値が生まれてくるような政策展開が必要であるとか、また、ないものねだりよりも今ここにあるものをしっかり生かすべきだといった観点も入れてほしいといった大変貴重なご意見をたくさん頂いたところで、今回はこれらの論点整理となっている。
 - ・ これまで大変貴重な議論を頂きまして、経済・文化についての長期のビジョンは、それなりに姿ができつつあるかなという気がしております。これをさらに深めてブラッシュアップをしまして、富山県の新しい未来をしっかりと作っていく。ひいては、日本創生の一翼・一端を担うしっかりした県として次の世代の皆さんに引き継いでいく。そうした基盤がこの懇話会を通じて出来上がれば、ありがたいなと思っている。
- (2) 青年部会取りまとめ 報告（資料1）
(藤井代表幹事)
 - ・ ビジョンというものは参加する人が危機感、危機意識および当事者意識を非常に高く持っていないと、どうしても絵に描いた餅、絵空事になってしまうという懸念があるのではないかと感じていまして、今回の青年部会の議論を幾つかのステップに分けて、危機意識、当事者意識を高めていくような形で進めさせていただいた。

- まず、第1回会議は11月9日に開催しましたが、ここはステップ1ということで、委員全員の意見を表明してもらいました。ステップ2では、ここで危機意識の醸成を行いました。ステップ3では、その危機意識をベースにしながら、実際の仮説提示を各委員から行っていただきました。さらに、ただ言い放しの提案ではなくて、きちんとした当事者意識を持つての意見が欲しいということで、「経済」「文化」「人づくり」といった枠の中で、たくさんアイデアが出ました。ステップ4では、ビジョンへの昇華、未来のありたい姿からバックキャストिंगして具体的な施策を検討するという事です。より30年後のありたい富山県の姿をそれぞれが描いてみよう。そちらの資料が別添4となっております。
- 「おわりに」となりますが、われわれ青年部会としては、今回の提案を提案のまま終わらせるのではなく、県が定める長期ビジョンの実現に向けて、青年部会の委員一人一人がしっかりフォローアップしていく責務を担いたいと考えています。また、青年部会として、長期ビジョンの策定に関与したことで、あらためてここに出席されている皆さんも含めてですが、富山県の先人たちが、強い危機意識を元に恵まれない環境を克服したプロセスが見えてきましたし、全国トップクラスの暮らしやすさを実現してきた先人たちの苦労が、非常に身に染みて分かったところです。

それを踏まえてですが、例えば「富山売薬とドラえもん」の二つが代表するように、富山県人の持つ特異性を最大限に生かせば、時代を超え、国境も越えた普遍性を生み出すことができるのではないかと。長期ビジョンが富山県人の正しい危機意識とチャレンジ精神を喚起し、世界に通じる新たな価値を作り出すことを念願したいと締めくくっております。

最初に申しましたとおり、変革の推進には圧倒的な危機意識、当事者意識がなければならぬと考えていますし、今回、青年部会の中ではそういったものが少しずつ芽生えたのではないかと考えております。それを踏まえて、ここで言い放しではなくて、具体的施策を継続的に進めていくためにも、ぜひこの懇話会の委員皆さま諸先輩方とわれわれ青年部会との、例えば勉強会や検討会などの形の場を、もしよろしければ設立させていただければありがたいと考えております。

(清水副代表幹事)

- ポイントとして挙げさせていただきたいのは、「くすりの富山」をぜひさらに強いものとして、「くすりの一大城下町」を構築していったらいかがでしょうかということです。もう1点は、県内の中小企業には、非常にモノづくりの強いところがたくさんあると思います。ただ、一方で個々の強みを生かしながらネットワークづくりをするという意味では若干弱い面があるのではないかとということで、中小企業ネットワークを構築していきたいということです。さらに、最後に書きました宇宙研究によりまして、富山のブランディングをしていけばどうかということで、今回のストーリーを作成させていただきました。

最後に、今回の青年部会に参加させていただきまして、20代、30代、40代のみんなと、富山について真剣に語り合いました。富山の将来に対して不安を感じるころも、みんなと共有しました。今回一番強く感じたのは、まさに私も含めて一人一人が、富山

に対する非常に強い熱い思いがあるなということでした。そんな大好きな富山を、さらにいい地域にしていくことに対して、今後も力を発揮させていただきたいと思っております。

(3) 意見交換

(遠藤会長)

- ・ ビジョンの展開方向のキーワードとしては「経済」「文化」「人づくり」という3項目を、資料2で言えば横軸に置いて、縦軸には三つの将来像ということで資料が作られているということをもう一度確認させていただいて、皆さんのご意見を頂こうと思っております。

(A委員)

- ・ まず、藤井さんがおっしゃった危機感と当事者意識はものすごく大事で、物事を変えていくためにはこれがないと進みません。しかし、本当に危機感を、富山の人々が一体どれだけ持っていらっしゃるのか、そこは私には分かりません。自分ごととして取り組む仕掛けを、どう落とし込むかが大事だと思います。

- ・ 二つ目は、それが持続可能（サステナブル）であり、かつ、それが循環可能で回っていくだろうか。サステナブルに、循環的にするというのをやらないと、30年後に届かないという、その辺が根拠としてあるのかなど。ですから、基本的に富山の魅力をどうするのか。特に若い人や若い女性にどのような魅力をアピールするかとか、強化するかとかということが、ものすごく大事なポイントではないかと思っております。

今、赤ちゃんが生まれ、その赤ちゃんが二十歳になった。そして就職しよう、仕事をしようと思ったときには、赤ちゃんのときにあった仕事の半分は、もうロボットや AI、IT がやっているのです。だから、このときに労働力不足というのは一体どのようになるのだろう。仕事の半分はもうロボットがやります。人間は、ロボットができない、もっと社会的調整能力とか、イノベーション的な、クリエイティブな、アートの的なものをするということも考えなければいけません。しかし、今のままの人口形態で、ロボット、IT をわれわれはどのように評価したらいいのだろうか。今、専門家の間では、IT はツールではない。むしろこれはもう社会システムだ。社会インフラとしての IT が今は世界にできてきていると捉えています。従って、この辺のパラダイムが変わるということがあるので、人口構成だけで見ていていいのだろうか。むしろそれを先手、先手と飛び越すような形で IT をインフラに使いながら、より効率的に快適な生活を送れるようなことをやってはどうかということに、次はいくのではないかと。

先ほどの議論でときどき混乱するのは、今の延長線上を映し出すのではなくて、望ましいあるべき姿を描いて、それをバックキャストして、だから今何をするのかという手法で今議論されているということならば、やはりバリューイノベーション、あるいはその先、それをどのようにわれわれが仮説として置きながら、だから今何をすることが非常に重要な感じがします。2045 年を基本的な目標に置くときに、一つの大きな課題かなと思っております。

- ・ 三つ目は、「～力」は非常に大事だと。国力とは何か。地域力とは何なのか。それから、企業の競争力、企業力とは何なのか。最後は人間力とは何なのか。この辺が、これから

非常に感性を伴う世界で皆さんがグローバルに戦っていくために、ものすごく大事なポイントになると思うのですが、地域力というのを見ると何か狭い概念で書いてある。本来、地域力というのは、個人的には、やはり地域の資源や文化などの集積度であり、最後は住民が主体的に自分が自立して地域と関わってやっていくかという意欲、三つ目は地域を誇りとして、地域に関心を持って、地域のことは自分との関わりでこの地域に誇りを持って、もっと誇りを高くするのだというような、そのようなものの合計が地域力なのかなど思ったりもしています。その辺のアピールを世界に対してどのようにやっていくのかというあたりが、今聞いたところでの私のコメントです。

(B委員)

- このように骨子案として将来像を三つにまとめていただきました。なるほどなことばかりですし、新たな価値創造、グローバル&ローカル、人・地域が輝く。こういったことを元に、それぞれビジョンやさまざまな方針案は出ています。これから例えば30年後、逆に30年前を振り返って、それをつなぐコアといいますか、そういうものがあるからこそ続けていけるわけで、核になるものが何か。
- 三、四十年前のころの日本というのは一生懸命欧米のまねをしようとして、現在は逆にまねをされる立場になっています。よく言われることですが、モノづくりだけでなく、物語を求めていらしやるということを知っています。それに関するところで言いますと、そういう科学技術、特にモノづくりをまねされたとしても、それを生み出す文化といいますか、風土というのは、そう簡単にまねができない。そういったところにある意味興味といいますか、関心を持って見られています。
- 逆にそれに乗って、創薬・売薬だけでなく、それ以外のところも関連していたのだなということ、今回このような機会を頂いて勉強させていただきました。それだけでなく、いわば日本、あるいは富山の隠れた競争力は、まだまだ見つけられると思いますので、そういったところをもっと見つけ、次につなげていけば、もちろん危機意識を持たなければならないことは確かですが、そのようなことを続けていけば、もっとすごいことができそうだなと。外から見て逆に気付かされることもあると思いますので、そういったものをどんどん引っ張り出す、気付くということは、まだまだあると思います。

(C委員)

- 資料を見させていただいて、随分まとまってきたなと思っています。特に青年部会の方々が、30年後のありたい姿を描いて、そこからいろいろ議論しようというスタイルに、すごく刺激を受けました。
- 二つ言いたいのですが、30年前には携帯もないし、もちろんスマホもないので、全然生活スタイルが違ったわけです。これが30年後ですからもっと大きく変わっているはずなので、そのときの1日とは一体どうなのか。このときにはもうリニア新幹線ができていますので、東京-名古屋が1時間かからない世界になっています。そういうときに、ここでの生活はどのような1日なのか。それは何なのか。例えば、個人的に言うと、どんなに変わるとしても、家族のスタイルはそれほど変わらないと思います。そうすると、お年寄りがすごく元気で、子どもや孫と一緒にいられるような世界とか、日本の中では

非常に大きく変わっているかもしれませんが、このようなところではすごくそういうものがきちんと生きているのかどうなのか。30年後に大きく変わった世界の1日を考えてみて、そこから家族のあり方のようなものを考えてみると、何か一つ手掛かりが出てくるのではないかと。

- もう1点は、龍角散の社長さんと漢方薬について話す機会があって、そのとき非常に感じたのですが、漢方薬の世界は今、日本では絶好調で、中国の方が、向こうが本場のはずなのに、日本にたくさん買いに来ている。一時期、日本から漢方薬を向こうに売り込もうとしたけれども、なかなか売り込めなかったのも、もういい、自分たちで頑張るのだということをやっていると、今度は向こうの人が買いにくるようになってきたというのです。その根底には何かあるかということ、技術力と信用なのです。なぜかということ、龍角散の社長さんがおっしゃっていたのですが、龍角散のふたを開けたら、ふわっと粉みたいなものが舞い散る。あの細かな粉は中国では作れないというのです。だから、見ただけでまねできない技術があると分かるのだと。考えてみると、技術力と信頼というのは、ある意味富山のすごい力という感じなのです。売薬のこともありますが、やはりもともとそういう県民性や、そういうことをずっとやってこられたということがあると思います。それから、次に象徴されるものは、もっと深いものであってほしい。単に「くすりの富山」というだけではなくて、富山が持っている、今言ったような技術力や信用を通して、何かもっと深く富山の方たちを意気込ませることができるのではないかと。

(A委員)

- それぞれのテーマに即して非常にいいことがいっぱい書いてあるのですが、ただ、その背景にある価値観をわれわれはきっちり置くべきではないのか。グローバル化やいろいろな人材育成、ベンチャーを育成しようというのは、どちらかといえば格差を広げる政策なのですね。他方で、中小企業のネットワークやハンディキャップを持つ方を何とか社会的に支援するというのは福祉政策的な要素です。つまり、相矛盾する価値のものが、ここにずっと並んでいるのです。それを限られた資源、限られた時間、限られた人間で、優先順位をトップの人が付けてやるとすれば、どうプライオリティを付けるのか。しっかりした価値観を持っていないと総花的になってしまって、いざ実際にやるときに大変だなと。その辺のコンフリクトがこの価値観の裏にあって、この辺をどのように取り扱うのか。違いは違いとして分かった上で進まない、どうも同床異夢のようになってしまうと思います。

(石井知事)

- 今の点は、非常に本質的なお話だと思うのです。これはなかなか事務的に答えるというよりは、私が言うしかないと思うのですが。
- これで、もうしばらくすると知事を3期務めることになるのですが、どうしてもこれだけ変化の激しい時代に、今、富山県の30年後を議論しているのですが、未来に向けてしっかり劣後しないで、価値のある地域として、まさに高めていくことになる、やはり先端的な取り組みや、優れた才能をしっかり支援するとか、そういうことをやらざるを得ないのです。みんな同じで横並びでいきましょうと言っていると、どんどん沈没

しますから、これはやらざるを得ない。しかし、同時にある種のセーフティネットというのか、みんながみんな優れた才能があるのではなくて、やはり数としては普通の人が多いわけです。私もそうですが、やはりそういう人たちが、しかしそれぞれの持ち場で張り合いを持って参加する。自分にできることを頑張る。そして、一生懸命やれば、それなりに報われる。非常に優秀で、特別な才能を持った人だけが所得が高くて、他の人はみんな駄目ということでは社会が成り立たないので、まさにそういう意味では企業活動をいかに活発にするかという場合でも、先端的な産業や、才能があつて新しい分野にチャレンジするという事はしっかり支援するのですが、標準的なといいますか、私も含めて普通の企業人や勤労者が一生懸命やれば、それなりに報われる社会も作っていかなければいけません。

- それから、残念ながらいろいろなハンディがあつたりして、普通に競争するとどうしても競争に負けてしまう状況にある方もいらっしゃるわけで、それはやはり社会的なセーフティネットもしっかり作らなくてはいけません。しかし、そういうセーフティネットがあることによって、社会が安定して、特別な才能を持った人も大いにチャレンジできる環境になるようにもなりますから、一柳特別委員がおっしゃることは全くそのとおりなのですが、やはり地域社会を発展させる、日本国を再興するといった、いろいろな違う角度からものを、できればある種のバランス感覚を持って、組み合わせていくしかないのではないかと思います。
- 従つて、いろいろな切り口があつて、取りあはずこの三つぐらいかなとしているのですが、確かにこのように書くと、おっしゃるように、その中に優れた先端的なものを一生懸命、チャレンジ精神を持ってどんどん進めさせる部分と、一般的にやるものを、しかしそれなりにみんなが頑張れば成り立つようにして欲しいものが、どうしても併存することになるのです。しかし、それはある意味ではやむを得ないので、そのことが社会の安定や、優れた人たちがそこでまたそれを基盤にして発展する基礎ができる。社会が不安定になるとまさにそのこと自身が難しくなっていくようになりますから、やむを得ないのではないかなと思います。
- しかし、おっしゃったことは、いつもどこかで意識していないといけないと思います。それを抜きにして、みんな同じですなどということでは、なかなか世の中が発展しないので、それはわれわれも強く意識していかないと駄目だろうと思っています。

(D委員)

- 大変立派な企画書を出していただいた。私は聞いていて、先ほどのB委員の30年前と30年後という形で、日本とか、富山県とか、私が先ほどから考えていたのは、ではわが社はどうだったのか。海外へ出ないといけない。それから、切り捨てなければいけないものがあります。それは個々の事情によって違うわけですが、私どもの場合は技術進化です。もう一つは、あまりにも増やし過ぎた管理要員の切り捨て、カット。そのためにはいろいろな規制緩和も必要だと思います。

そういうことで、守るべきものは守るという表現が先ほどありましたが、そういうことをやりながら、計画の中でもこうしなければならない、こうあるべきだということ、少し取り入れられたらいいかでしょうか。

(E委員)

- 先ほど、30年後、富山県の医薬品がトップであるというお言葉を頂きましたが、実際のところ現在すでにトップだと思います。来年あたり発表されたら一位は間違いありません。

錠剤を作る打錠機などの機械については、錠剤を小さく、飲みやすくするというのがこれまでの時代でした。今は、錠剤に薬の名称などを印刷することに一番苦勞しています。しかし、30年後にはまだ剤型として錠剤があるかというのは疑問ですね。画期的な特効薬が発売されたら、それまでの薬の需要がなくなってしまいます。治らないと思われていた病気も治るようになり、医療は日々進歩しています。30年後、薬屋は成り立つのかなと思うくらいです。ですから、医薬品業界でもこれまでにないものを発想していかなければなりません。今あるものを何とかするのではなく、新しい技術や違う角度からのアプローチを考えないと、30年後、富山県が薬都だと言えなくなるのではないかと。そういういろいろなことを考えて、バイオ医薬品ないしはバイオシミラーを開発していかなければいけないのではないかと考えております。

インバウンド需要で爆買する中国人がなぜ龍角散を大量に買うか。今、中国は大気汚染が深刻で、咳も出ます。目もおかしくなります。だから龍角散が人気なのです。今後環境が改善していけば、病気というか、そういう障害はなくなっていくのではないかと想定されます。30年後、需要は別なものに移っているはずですが。常に新しい挑戦をしていかないと、医薬品業界は難しいのではないかと危機感を感じております。

(F委員)

- 富山県の人たちが持っている気質のようなもので、富山県がこういう人材を供給できる、供給源、供給基地ですよみたいなものでもいいのではないかと。それはどういうことかという、例えばインド人が数学に強くてシリコンバレーで非常に活躍しているとか、かつてユダヤ人がアメリカの金融や流通、マスコミなどで活躍できたとか、ドイツ人が第2次大戦後に科学技術で世界中で活躍したとかいうように、富山県の人というのはこういう分野で活躍できるのだな、富山県の人であればこのように使えるぞみたいなことで、必ずしも富山県で働くということではなくて、そのような人のブランド化のようなことも一つ考えていってはいいいのではないかと。それが文化であり、教育の基本になるのではないかと気がしております。

(G委員)

- お願いしたいのは、用語の定義（デフィニション）集を、簡単なもので結構なので、作っていただきたい。これがないと、あなたの価値創造・私の価値創造等で、ばらつきがあり、議論がかみ合わなくなるのではないかと。文化についてもそうだと思います。この用語は大体このようなことをイメージして書かれているのですよということがあればいいなど。
- 2点目は、東京と地方との役割分担をどうするのか。鎖国をしていた時代でも、参勤交代で新しい江戸文化が地方へ来たわけですが。富山だけが素晴らしいというのはあり得

ないので、やはり世界の中の日本、日本の中の富山、特に東京との位置関係をどのようにしていくのかについて、もう少し書き込んでいくとよいと思います。

- ・ 3点目は、何人かの方がおっしゃっていますが、変化にどう対応していくのか。例えば、経産省では15～20年ぐらい先の各産業がどうなるかという予想があります。2～3日前に日経新聞を見ていましたら、あるアメリカの学者が、今、小学生の人が大学に入るまでの12年の間に、65%の現存する産業はなくなるとまで書いてあるのですね。産業構造変化のようなものを分かる範囲で少し織り込んでいくと、もっといいのかなと思います。

(H委員)

- ・ 30年後のビジョンを掲げるのもいいのですが、現状地域で起こっていることを、もっときちんと大所高所から考えなければいけないのではないかと考えています。富山県内でも旧の大山町や大沢野などは、生活するのも難しくなってくるのではないかと。県内でもそういう市町村が出てくると思う、各市町村長が考えなければいけない話ですが、県としても今から人口形態を踏まえたインフラ整備を考えていただきたいと思います。

(I委員)

- ・ 最近の月刊誌にも出ているように、富山県人の愛着度、自慢を見ると、愛着度は全国で32番目、自慢する人は34番目です。愛着度が少ないのはなぜだろうかということを考えてみる必要があります。自分の国を、自分の住んでいるところを自慢できないのはやはり非常に寂しいことなので、何かその辺がもう少し、原点を見て、将来の30年後をどのようにしていけばいいのか。
- ・ 先ほども、仕事場もロボット化されたらどうなるかとか、全て原点から30年。私は30年を振り返ると、その辺がしっかりしていないと次の30年は絵に描いた餅になってしまうのではないかと、原点の問題をしっかりとつかんでやってほしい。

(J委員)

- ・ 先ほどA委員がサステナビリティという言葉をおっしゃいましたが、もともとサステイン、支えるという言葉からきているのだと思いますが、いわゆる継続させる力が、やはり文化の方面では非常に組織の力となって表れてくるのではないかと考えています。東京を仲介しないことは、芸文協ではもう常識ごとになっておりますので、むしろ世界各国の首都をバイパスする国際的な地域間交流といった表現の方が、よろしいのではないかと。
- ・ もし書いていただけたら、特に富山県における芸術文化の真の発展は、民間、行政、マスコミの三つの力の結集によるものであるというところが、この先も強調していけたらと思っていますので、文言に入れてほしいと思います。

(K委員)

- ・ 私の感覚から言うと、30年というのはとんでもないという感覚がまずあって、やはり10年でも難しいのに、30年先というのは、ある意味では自分の今いる現状と違う、今の自分のやっていることと違うことを、夢を語る、あるいは現在不満なことをいろいろ全

部解決してという前提で話をされるのはいいのですが、そのことは本当にビジョンになるのか。あるいは、目標になるのかというのは、分かりません。現実はいろいろな問題が起こってきますから。それで、もう少し短いタームで、われわれはこのようなことをやりたいということが表明されて、そこに向かって具体的に進んでいく方が、実際には激しい議論になると思うのですが、ビジョンになりやすいのではないかと考えています。

(L委員)

- この三つの将来像は非常によくまとまっているなと思っています。今、お話にもありましたように、30年後に若者や働き盛りの人たちの質がどのように変化しているのかは非常に分かりづらいわけですが、多分、10年後ぐらいでしたら、今までの傾向からしますと、やはり歴史や伝統文化を重んじる精神が希薄化してくるのではないかと考えています。多分、そういった価値観もそのように変わってくるのかなと思っています。
- 今、20代くらいの人たちを対象にこういったビジョンを考えるということも、一つの大事なのかなと思っています。そのためには、あまり重々しいものではなくて、やはり分かりやすく簡潔なビジョンが必要なのかなと思っています。

(A委員)

- K委員に質問なのですが、他のこういう、こうありたいということで、未来の希望をビジョンにしたいということがこの会議だと思っているのですが、長過ぎるという、例えば地域づくり、国づくり、教育一つ一つという、やはり20年かかるのです。こんなものが2、3年で変わるわけがないのです。

だから、経営などは激変するので3年でいいと思うのですが、その辺がこの会議で何を焦点にしているのかと。僕は、こういう議論はあまりないですから、ぜひ国づくり、地域づくり、人づくりのようなものを本当に、極端に言うところから、何か夢見て、こんな地域になったらいいなというのは、とても意義があるなと思っています。その中で、短期として3年、5年などというのを入れていけるので、これは変えてもいいと思うのですが、そういうことに意義があるなと思っていますが、否定されたような感じなので。

(K委員)

- 30年を全く否定しているわけではないのです。将来のビジョンはビジョンであっていいと思うのですが、それが夢物語だと困るなど。実際には、今、いいこと、悪いことがあって、いいことはより良くしなければいけないし、悪いことはなくしていかなければいけないし、この県がどういう方向に進んでいくのかということをお民の皆さんにアピールするために、もう少し具体的に突っ込んでいければいいかなと。それを少し極端な言い方をしましたが、そういう意味です。

(石井知事)

- これも経済・文化長期ビジョン懇話会を何のために作ったかという最初の話に戻りますが、今ご承知のとおり、富山県としても、全国知事会としても、政府に働き掛けて、

地方創生を中央政治の主要テーマにしてもらうことができたのです。地方創生の計画を全部の都道府県が作り、国も曲がりなりにも、それに予算を付けたり、お金を出したりしてくれる体制になり、税制上の措置などもできています。

- それはそれで、一定の成果が出せてうれしいのですが、計画とか、毎年毎年の予算編成や政策をやる際に、もちろん一定の確度で、早いものはせいぜい5年後とか、場合によっては10年後だけれどもという議論は重々分かるのですが、一方で、本当にそういうことだけを考えていて、今の3年、5年後に本当に誤りなき政策ができるのか。やはり分野によって違うと思うのです。
- 例えば、これは私自身が責任者ではなかったのですが、霞が関で仕事をしていた人間の反省として言えば、30年前はまだまだ子育て支援や少子化対策は誰も考えていなかったです。でも、あのころから出生率はどんどん下がっていたのですね。それで、少しその前後はまだ、日本は人口が多過ぎるから、子どもは少ない方がいいのではないかという論が横行していたのですね。それから、福祉元年などといって、私も政治家の端くれですから反省をしなければいけないのかもしれませんが、やはり取りあえず高齢者が少ないものですから、頂く保険料よりもはるかに、見合いでいうと引き合わないような福祉サービスを始めてしまったのですね。あのころも多分、厚生労働省あたりで先を見ていた人は、こんなことをやってしまったら後で大変なことになる。30年後に30代ぐらいになる若い人たちが、保険料負担で苦しむことになると、分かっていたはずなのです。でも、実際はそれが大きな声にならずに、目先の3年、5年、あるいは次の選挙のために、いろいろな政策がとられたから、今の日本の国の財政があり、さまざまな課題があるわけです。
- そういう私の反省もありまして、やはり富山県というのは、もちろん5年の計画もしっかりまめに作って、自画自賛ですが、一応、地方創生で私がずっと、全国の中でもトップランナーだと位置付けていただけたぐらいのご評価を頂けているのではないかと思います。それで満足していると、また同じ間違いを日本全体がするのではないかと。例えば、出生率を上げましょうと。実際、今から若い世代になるべく早く結婚してもらって、赤ちゃんもできれば2人、もっと言えば3人産んでもらう。でも、この人たちが一人前の労働力になるのに、スムーズにいったとして20年かかるのです。でも、結果的に時間がかかるから、30年かかってしまう。その間、どうするのですかということで、今、いろいろな資料を出しているわけです。
- ですから、計画にもいろいろなデザインの計画があって、個々の民間の企業の皆さまが経営戦略を立てるときは、あるいはそうかもしれませんが、同時に、例えばグローバル企業でいらっしやると、恐らく30年後、20年後、10年後の世界がどうなるか、だとすると、今、何の手を打っていかなければいけないのかということをも多分考えておられての当面の5年計画ではないかという気がするのです。
- まして政治とか行政、特に今例に挙げた福祉や医療、年金などの話は、やはり長い目で見て、そういうことを考えると、では今何をしなければいけないのか。あるいは、今どんな種をまいていったら10年後、20年後、30年後に花が咲いて実が成るのか。こういうことをいつも考えているのです。

それは必ず不確実なことがあって、こと志に反する部分があるとは思いますが、かと

いって、それをやるのはあまり意味がないと言ってしまうと大丈夫かなと。そういう意味で、こういうことを始めましたので、いろいろなご意見があつていいのですが、できればそういう思いで始めているということをご理解賜りたいと思います。

- 同時に、これは総合的なビジョンではないのですね。経済、文化、人づくりに焦点を当てているのは、この問題をあまり広くしてしまうと、それこそ 30 年後の、しかも 30 年を一度ではなくて、10 年先、20 年先、30 年先を考えて、それについてのビジョンを持って、富山県がどうなつてほしいのか、なつたらいいのか。それで、今何をすべきか考えましようということなので、そこで大事ないろいろな形のものがあるのですが、経済と文化と人づくりとやっているの、できればご理解いただければと思っております。

(遠藤会長)

- お聞きするところによると、このような取り組みをしているのは他の県ではあまりないということですし、富山県としての大きな特色になると思っております。

(M委員)

- 知事が言われたように、最初からこのテーマは、30 年先のことからビジョンを作って、どうやっていかなければならないかということの会議なわけですね。ですから、今、やはりここに出てきた骨子案について、果たしてどんなものかということでない、全然進まなくなっていくのかなという意見です。やはり長期なら長期で、確かに不透明なところはありますが、一応ビジョンとして作って、それを展開していく中において、環境が変わったり何かあれば、それは柔軟に対応していくというやり方でないと、進まないのかなと。
- この中で、一つ新たな価値創造の中に「薬都・富山の振興」がありますが、やはりこういう中でいくと、従来からのいろいろな富山の、国家でも何でもそうなのですが、強みなどを生かしながらやっていかなければならないということになったときに、この薬という問題については、富山というのはやはり日本の中でも一番信頼されているというか、信用されているということがあると思います。これから高齢化社会などになっていくときに、やはり健康で長生きしなければいけません。これは労働人口などにもつながっていくということだと思います。薬都・富山の振興は、非常にいいことなのかなと思います。

(N委員)

- 富山県の場合は非常に文化がアマチュア化している。そのことが悪いかどうかは別として、アマチュア化していると思っております。伝統文化も同じことで、例えば農村が非常に衰退化しましたので、そこで生まれた獅子舞や左義長、七夕も、地域ではほとんどなくなってしまいました。そのように構造的に変わっていくものをもう一度復活させようといっても、もう無理があるだろうなという意識を持っています。
- それから、世界へという話がありました。これは当然そうしたらいいと思いましたが、現在、世界で通用するプロ集団は SCOT しかないわけですから、やはりそれをもつと質・量とも増やしたいなという意識があります。そういう中で、知事がニューヨーク

で日本工芸会富山支部の作家や伝統的産業の方を紹介されたというのは、具体的な事例として非常に画期的なことだろうと思っていますし、こういう取り組みがヨーロッパやアジアにも広がっていけば、今、作家たちも救われる可能性があるのかなと思っています。

(O委員)

- ・ 私は、遠い道・高い山に登るには「道しるべ」が必要だとしたら、この骨子案はとてもその道しるべになるものではないかなと感じますし、これまでの多くの意見やデータが集約された形になっていると思います。若い人たちが将来を見通して、こういう経済や長期ビジョンを持って考えていくということは、とても大事なことで、若い人たちが考え続けられるような人づくり、つまり教育が大切なのではないかと思います。短いスパンで考えていくことも必要なのですが、やはり跡を継ぐ若い人たちのことを考えれば、長期で見通していく道しるべが、きっと必要なだろうなということの一つ感じました。
- ・ そういう意味で、人を丁寧に育てていくという人々の暮らしが集まって、経済や文化を支えていくということになりますので、先ほど知事が、普通の人の暮らしということでおっしゃってくださったのは、大変心強いなと思ったのですが、結果だけを大切にすることはなくて、努力&苦勞のプロセスもしっかりと見ていただけるような、人々の暮らしを、きちんと見ていくビジョンであってほしいということを感じました。
- ・ 三つ目です。そのようなことを考えたときに、一つだけ、できるかできないかの提案なのですが、このたたき台の一番左側の将来像のところに、私がもしかしたら何か少しだけ足りないなと思ったのは、「暮らし」というものが抜けていないかなと。「人、地域が輝く」と考えれば、その中に入っていると言われればそうなのですが、個ではなくて人々とか、「人々、暮らし、地域が輝く」というふうに、イメージでいいと思うのですが、人が集まって支え合い、暮らしを積み重ねて、経済・文化がつながっていくということになればいいなということ、拝見しながら一つの願いを持ちました。日本の中で何ができるのか。世界の中で富山が他と違うところは何なのか、強みは何なのかということ、また考えていけばいいかなということを感じました。

(P委員)

- ・ 時代の流れの中で、こうありたいという中で、方法を変えていかなければならないことと、あえてこだわり、守るべきものという観点からも考えていくべきかなとも思いました。やはり芸術文化の分野でも子どものころから文化的感受性の豊かな人材を育てることは非常に大切なことであり、やはりそれが本来の文化の持つ、生きがいつくりの促進につながるのではないかと思います。

(Q委員)

- ・ やはり世界の人たちが見たいのは日本の歴史であって、日本の文化だと思うので、富山のいい文化、富山の、日本のいいものを世界に発信したら、一番いいかなと。それが若い子どもたちの自信につながるのではないかと感じました。

(R委員)

- ・ 歴史に学ぶ必要があると思います。そういう意味で、過去の20年間の日本の失敗は、付加価値が縮小することを前提に全てを考えることで、それが負のスパイラルをどんどん招いたと思っています。この富山県という地域社会が、これから30年付加価値を拡大するという方向に行っていただきたいと思うし、多分、皆さんはその意味を込めて、いろいろなビジョンを出されていると思うのです。拡大していけば、言ってみれば、先ほど配分の問題もありましたが、その点についてのきっちりとしたセーフティネットを持ちながら、トップラインを上げる人にはそれなりの配分があり、豊かな中間層ができる社会を実現していくべきだろうと思っています。
- ・ そういう中で、一つだけ視点として考えていただきたいのは、30年、今、ちょうど地方創生という形で東京一極集中を排除して、それぞれ日本の地方を活性化していこうという話が出ています。要は、近隣地域や地方間のネットワークをベースにしながら、富山の30年後あるいは将来を考えるというところが、視点としては少し足りないのかなという感じがしました。

(S委員)

- ・ 示された骨子案については、本当にたくさんまとめていただいて、私たちの立場から言えば、ふるさと教育とグローバル教育の融合、グローバル化に対応した教育、それが私はこれからの長期については一番大事なものではないかなと。決して日本は日本だけでは生きていけないという感じですので、そこは強く希望します。
- ・ 今、私たちが一番危機感を持っているのは、やはり本当に地域のつながりがなくなっていることで、それを強く思うところです。限界集落もたくさん出てきますし、富山県としても、やはり中心部の富山市、都心ばかりではなくて、地方をどうするか、地方が良くなれば、きっと富山県も良くなるのではないかという思いで、私たちは地域で頑張っていますので、ぜひ青年部会の方々にもよろしくをお願いします。

(T委員)

- ・ 今回の30年の長期ビジョンは、少子高齢化の現代において、地方創生を願う富山県がますます飛躍するプランと捉えています。富山県は大変「住みやすい」県と言われています。私は、今後「住みたい」富山県になってもらいたいと思っています。子どもたちが将来「住みたい」県、また、県外からも富山県に来てぜひ「住みたい」と言われる県になってほしいと思っています。

長期ビジョンの中には、数値で目標を示せるものとそうでないものがあると思います。例えば、医薬品の出荷額のように数値で示せるものもありますが、子育てのしやすさ等、数値で示せないものもあります。そういったものは満足度等で推し量る必要があると思っています。そして、その満足度を高める努力をしていく必要があると思っています。数値で示せるものは、その達成度を高めていかなければならない施策が随分あると思います。

ぜひともその点で、この将来像をわかりやすく分類し、目標設定をしていただければ

幸いと思いました。

(A委員)

- 一言で富山県人の特徴を私から言いますと、非常に誠実で真面目。ちょっと控えめで、言われたことはきちんとやる。で、非常に信頼できる。ただ、物足りないと思うのは、非常に大胆な構想力を持っている人が少ないなということです。それから、グローバルな視点から富山がどうだという、外から見た富山を話せる人が少ない。もう一つは、このようなことを言うとあれですが、コミュニケーション能力が少し足りないのではないかと。発信と書いてありますが、発信だけでは駄目で、相互理解と共感を求めるという、この辺までを含めた取り組みを、これから人材育成でやっていかないと、世界のグローバルな競争では、おおよそ静かにしては負けてしまいますから、そここのところを補充すると、土台はものすごくいいから、あとは発展することが十分期待されると思います。

(石井知事)

- 今日は本当に多岐にわたる非常にいいお話をたくさん頂いて、青年部会の皆さんには、私が青年部会を作らせていただいたのは、何人かの方が言われたように、今、例えば35歳、40歳の方が、30年後には私の年齢になるわけで、やはりそういう人たちに入ってもらってビジョンを語ってほしいなど。
- 先ほどのK委員のお話のとおりなのですが、経済・文化長期計画ではなく長期ビジョンと言っているのは、まさにそういう趣旨であるということです。何人か、例えば地域力というのは一体何と考えるのかといった問題提起であったり、あるいは何人の方、C委員やO委員が、30年後の人々の暮らしも、もう少しイメージして書き込んだ方がいいというご指摘もありました。
- また、E委員などからは、医薬品業界は実質トップなのだけれど、常に新しい技術革新やイノベーションをやっていかないと新たな発展はない。そういう意味で、いろいろな問題意識を持っていらっしゃるということを、あらためて痛感しました。
G委員が言われた、言葉の定義(デフィニション)をもっと明確にしろというのは確かにそのとおりで、またそうしたことも考えてみたいと思います。
- 本当は30年後をシビアに考えると、現在でも本当に暮らしが成り立たなくなるところがあるのではないかというようなお話もH委員からありました。そういう面もあるのですが、どうするかですね。
- 東京一極集中に対して富山県はどういうスタンスを取るのか。もう少しそういうこととの関わりも触れた方がいいのか。世界と富山だけではなくて、世界の中の日本、日本の中の富山。でも、日本の中の富山というと、やはり確かに首都東京との距離感の分析や位置付け、将来のビジョンのようなものが本当は要るのかもしれませんが、どこまで書き込めるのか。また、そこまでディテールに入り過ぎると、そんな30年後のことまで分かるのかということになりますので、これをどのように扱えばいいのかも、また私どもの方でも検討させていただこうと思います。
- 道しるべというお話もありましたが、そういう気持ちでもあります。また、これをや

ったことによって、青年部会に結集された皆さんが、私が当初思っていた以上に非常に真剣に議論していただいて、これがまたいろいろな若い世代に問題意識がだんだん共有されることになっていけばうれしいと思いますし、また、時あたかも選挙権も18歳まで引き下がりましたので、なおのこと若い人たちに行政や地域づくり、政治、まちづくり、あるいは産業のこれからのビジョン、あるいは人づくりなどを、ぜひ考えていただければと思います。

- また、最後に、コミュニケーション能力という話もありました。確かにそうかなと思います。いろいろな貴重なご意見をできるだけ受け止めさせていただいて、もう少し洗練度の高い骨子案を、次回にはまとめさせていただければと思っています。今日は本当にありがとうございました。

(遠藤会長)

- 骨子案の原案に対する反対もなかったと思いますので、これをベースにして、また青年部会も開催されるようですので、事務局の方で骨子案を、また委員の皆さんのご意見も頂きながらまとめていただきたいと存じます。以上で会議を終了いたします。